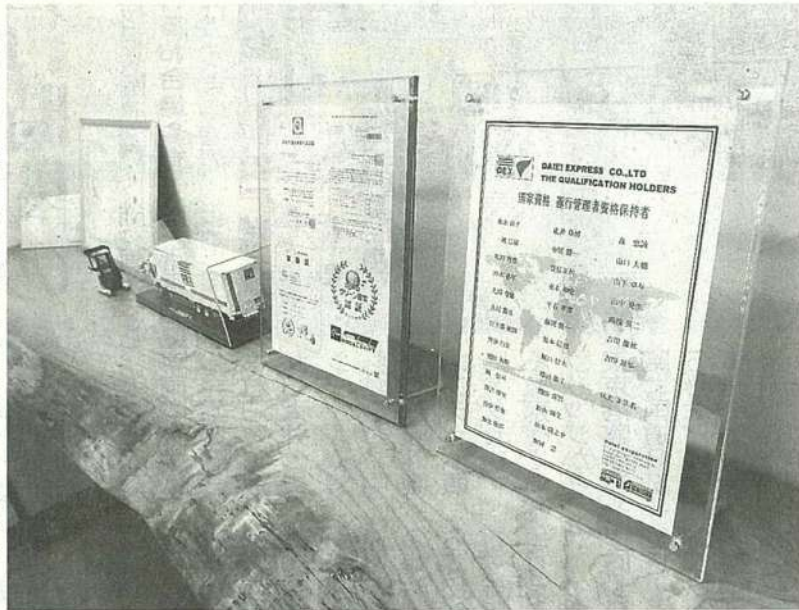


運管試験 全社あげ対策 安全な輸送の提供基準に



運管資格保持者の一覧を社内に掲示して、モチベーション向上に役立てている

大榮 上質な物流マン目指す

【大阪】大榮(吉田昌弘社長、大阪市此花区)では、運行管理者試験の合格に向け、自社の指導担当者や勉強会を開催するなど、社内での活動を通じて、サポートを行っている。8日時点で社員90人のうち33人が運管試験に合格するなど、実績を上げている。週3回行われる勉強会には、社外からも参加者が集まるほど好評。25日の2019年度第一回試験前にも、全社を挙げて取り組んだ。(黒須晃)

受験に要する費用は会社が負担。吉田社長は「顧客に対し、『安全で優れた輸送サービスを提供している』とアピールするためには、客観的な基準が必要になる。運行管理者資格はその証拠と言える」と強調する。

同社では上質な物流マンを育成するために、常に挑戦する姿勢を大切にしている。そのため、幹部から受験を勧めることは少なく、自ら申し出る社員が多い。

また、そうした同社の姿勢に共感し、試験対策の勉強会には、社外からも受講者がいるほどの人気で、90%以上の合格率を誇るという。

吉田氏は「運管試験は単なる認定証ではなく、安全に対する深い知識を持つための関門だと認識している。言うなれば安全のプロの証だ」と述べる。同社は重量物、長尺物の輸送ネットワーク「メタル便」の中核を担っており、安全面には特に配慮している。「事故を起こせば、全国の仲間迷惑が掛かる。常にプロの意識を持ち続けなければならぬ」

運管資格の保持者一覧を社内に掲示したり、名刺に運管資格の保持者と明記したりして、モチベーション向上に役立てている。求職者が面接の際に保持者一覧を目にして、「安全に向けて注力している会社だ」と入社を決意したこともあった。

吉田氏は「社内のドライバー全員の資格取得を目指している。最近では、事務職も運管試験にチャレンジしている。物流に携わる人間として常に高い意識を持ちながら、全社を挙げて今後も取り組んでいきたい」と語る。

採用にも結びついてい